



「……今度は、こんな格好で拘束するなんて……」
「……この屈辱的な仕打ちをまだ続けるといふのかしら……?」

「(なんとか脱出する糸口を見つけないといけないというのに……)」

「なっ…!? なんですかこの悍ましい触手は…!!」

「…まさかこの体勢は…っ 私の胸を…!!」

ぐわん

ぐわん

ぐわん

「や、止めなさいっ!」

「私の体は触手なんか触れていい場所じゃ…っ!」

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

「あっ…だめっ、待っ——♡」

スリッ…

きゃっ!♡

ちゅー♡

『は……あ……♡はあっ♡』

は……

『は……♡♡』



は……

は……

は……

は……

は……

は……

は……

は……

は……

『……♡ ~~~~~♡ ~~~~~♡』

……

……

ギョッ



ムムム

ムムム

『(やっぱり……なんて快樂なの……♡)』
『(こんな……♡ こんなふざけた触手なんかには屈するものですか……♡!)』

「はーっ♡くっ♡この…♡」
「吸い付いて…っ♡搾り…出す気…っ♡」

ズク♡

ズク♡

はぁ♡

はぁ♡

「いつもより胸の感覚が敏感になっていても…っ」
「こんな悪趣味な責め…っ 耐えてみせますわ…っ!」

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

数十分後……。



「このっ…♡しつこいくらいに…♡搾り取ろっど…っ♡」



「…?」

ま。

「ふっ♡ふっ♡」
「う…動きが…止まった…」

ふっ♡…♡

「はーっ♡はあ…っ♡はあ…♡」
「ふふふふふふ…っ♡も…もう終わりかしら…♡」

「残念…だったわね…っ♡」
「この程度の快楽でこの私が屈するとしても——」



おはよう

おはよう

おはよう

「~~~~~」

「は……っ??」
「ち……っ……♡乳首を直接狙って……!!」

「ま、待っ♡いきなりっ♡それはっ♡反則っっっ♡」



「あっ♡あっ♡あっ♡あっ♡」
「そんなっ♡こんなっ♡吸っちゃっ♡だめっ♡だめっ♡だめっ♡♡♡♡」



「出ちゃうっ♡イっちやうっ♡」
「乳首っ♡イっ♡♡♡♡♡」

「おっぱい♡」

「おっぱい♡」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「~~~~~」

「もう…♡しばらく…ないで…えっ♡」



T=3.0
ん♡



Yoko

T=30
ん♡



とろろ♡



3

3

『oooooooooo』

『oooooooooo』



『は……♡また母乳が……溢れ出て……♡』

『は……♡』

『私を……体どうするつもりなの……♡』

『は……♡』



































